

P-5. 金沢大学核医学診療科の例

金沢大学 核医学科

利波 紀久

核医学教室が誕生してから丸3年を経たが診療、研究面の活動実績の伸展とともに教育面での拡充を急いでいる。教室構成員は専任教官、教授以下8名、研修医6名、外国人留学生（文部省派遣）1名、海外留学生2名よりなるが実際教育に携わっているのはStaffの8名である。卒前教育として3年、4年と一貫して36時間の講義が教授によってなされている。その内容は核物理および放射線生物学の復習に始まり核医学臨床原理、放射線医薬品、検出装置、体外計測、インビトロテスト、ラジオイムノアッセイ、核医学における安全対策、各種臓器の診断と1部その治療等である。その内容は年々広汎かつ深くなる傾向にある。3年を対象とした実習は小グループ（約8名）で1回2時間、4回 計8時間の割当てされ、主としてスキャン診断カンファランスを核種の選択、方法、原理、装置など個々の症例をもとに専任のStaffが1名担当している。4年の実習は小グループ（約5名）を対象に、8日間連日4時間計32時間行われているが、内容はさらに深く検査法の選択核種および投与量の決定、得られた結果判定法から診断に至るまでの全過程の臓器別習得、ならびに実際の装置の操作法、放射性医薬品とその安全取扱、核医学のコンピュータ応用について講習を行っている。

6名のStaffがそれぞれ専門の臓器を交代に担当しているが、その他応援講師として2名医療短大より仰いでいる。またこの間最近の核医学に関する外国文献の抄読を行わせ、内容についてStaffとともに討論することを義務づけている。実習期間外に希望者に対する補助的教育として、音声付 self-teaching machine を教室の症例から作成したスライドを用いて理解の一助をしている。卒後教育として、研修生に対して入局半年間は関連病院にて放射線科、内科を中心として研修、さらに教室での半年間は専門のための核医学研修カリキュラムを実施している。基礎実習を20項目とこれに平行して臨床実地修練として診断治療にわたり、計500例のレポートの提出を行わせている。また週2回のStaffを交えた抄読会ならびに放射線科教室と協力し、定期的なフィルム、スキャンカンファランスを持ち、レベルアップに努めている。